

# 総合人間科学研究科の特徴

総合人間科学研究科は心理学専攻、人間学専攻、健康栄養科学専攻からなっています。これら3つの専攻は、時代が大学院に求める高度な社会的かつ教育的な役割の期待に積極的に応えて、「心」、「人間の共生」、「食」に関する多様な問題や課題解決のために、指導的な役割を担う高度な専門職業人や人間に関する諸問題へ柔軟に対応できる高度で知的な素養のある人材を育成することを目的としています。学部教育の基礎の上に立って、より発展的で連続性を持ったカリキュラム及び教育方法・指導が準備されています。

## 心理学専攻の特色

本専攻は、臨床心理学コースと心理行動科学専攻コースに分かれます。両コースとも心理学の専門的かつ先端的な知識・技能を学ぶとともに、関連する心理学の隣接分野を有機的かつ体系的に学習します。

### ○臨床心理学コース

臨床心理学コースでは、現代の問題に対して、臨床心理学的視点から問題の解決を支援できる力を養成します。将来、心理的援助の専門家として学校や医療機関、司法機関、福祉機関、相談機関等で活動したい方、臨床心理学を深く学びたい方を求めています。公認心理師及び臨床心理士の受験資格取得を目指し、専門科目の知識や実践力を深めていきます。

### ○心理行動科学コース

心理行動科学コースでは、心理学の知識を深めるとともに認知、学習、発達、社会心理学など、心理学の様々な方法を学び現実の問題に実践的にアプローチしていきます。修了後は、公務員の心理職、法務教官、保護観察官などに就いたり、一般企業や民間団体の専門職を目指したり、大学院博士課程に進学したりします。

## 【科目の編成】

臨床心理学コースでは、公認心理師及び臨床心理士の受験取得のために必要な専門科目を学習していきます。そのための科目は、講義形式の授業と、実習形式の授業から構成されています。講義形式の科目においては、保健医療・教育・福祉・司法・産業の基本となる5分野における心理的支援の理論と実践について、演習形式で学んでいきます。「心理実践実習Ⅰ～Ⅳ」等の実習形式の科目では、現場に出るための必要な知識や技能を学んだ上で、教員の指導の下に学内実習を行うとともに、学外施設において、心理臨床の現場での体験を通じて学びを深めます。

心理行動科学コースでは、データに基づいて思考し、考察するような習慣ができるような科目を整備し、脳科学から集団心理まで幅広く学べるような科目を配置しています。①心理学総合演習を1、2年課程にそれぞれ設定し、その中で研究課題の設定・プレゼンテーションのスキル、研究発表・討論・論旨のまとめかたなどを教員・院生全員が参加するゼミで継続的に学修します。そこでは研究課題を自ら設定し、その科学的な論理分析による解決方法を研究の方法として習得し、最終目標である特別研究（修士論文）に結実していくよう配慮しています。②行動観察や面接法によるデータの収集、質的分析によるデータ処理・分析、質的調査によるデータの収集、そして心理学研究法による統計解析を中心とするデータ処理、分析、そして考察の仕方について学ぶ能力を培っていきます。

## 【カリキュラムの特徴】

両コースとも修士（心理学）の資格の取得が可能です。

臨床心理学コースでは、公認心理師及び臨床心理士の受験資格取得のため、専門科目と実習の両方を学んでいきます。①十分な指導の下に1年時から学外実習を実施し、実践力を養います。②講義と実習が有機的に連関することで、より深い学びが可能になるよう工夫されています。また、教員による丁寧な指導を通じて、実践力のみならず、研究能力の育成にも力を入れています。

心理行動科学コースでは、データに基づいて思考し、考察する能力を培う科目群を整備し、脳科学から集団心理まで幅広く心理学の知識を深めることができる科目を配置しています。

## 人間学専攻の特色

現代はグローバル社会や知識基盤社会と言われる。多様な文化の相互依存と相互対立が急速に進んでいる社会であり、また新しい知識・技術・情報が文化や社会のあらゆる領域で活動する際の基盤となる社会です。そのような社会において人間の共生に関わる解消しがたい問題も様々に現われ出ています。

人間学専攻は、人間の共生に関わる諸課題を人間の文化性、社会性、歴史性、また宗教性、倫理性、さらには創造性、協働性という視点から総合的に研究することを目指します。これらの研究によって、グローバル社会や知識基盤社会を支え、また構築しうる人間を育成します。

本専攻のカリキュラムは、人間学コースと共生社会学コースから構成されています。

### ○人間学コース

宗教学、聖書学、哲学、倫理学、人間形成学の観点から「共生」を研究します。

### ○共生社会学コース

社会学、経済学、教育社会学、多文化共生論、地域づくり論の観点から「共生」を研究します。

## 【科目の編成】

1. 必修科目として「人間共生演習Ⅰ」「人間共生演習Ⅱ」「人間共生演習Ⅲ」「人間共生演習Ⅳ」を設置しています。これらの科目は、修士論文の完成に向けて、テーマの絞り方、研究の進め方、論文の書き方およびプレゼンテーションの仕方とその実践、教員及び学生同士のディスカッションをとおして、研究の進め方と論文執筆の進め方を修得します。
2. 選択科目は、人間の共生に関わる諸問題を分野横断的かつ幅広い視野で追及し、関連する分野の基礎的素養の涵養を図るとともに、学際的な分野に対応しうる能力と専門的知識を活用し応用する能力を体系的に修得させるため、コースワークとして設置しています。
3. 研究指導科目として「特別研究」を設置しています。「特論科目」及び「演習科目」において学生が個々の研究課題に取り組む基本的な知識と研究能力を醸成しつつ、「特別研究」では最終的に修士論文を作成することに向けた研究指導を行います。

## 【カリキュラムの特徴】

1. 人間学専攻のカリキュラムは、人間学コースと共生社会学コースに共通の必修科目とコースごとの選択科目から構成されています。選択科目は「特論科目」と「演習科目」から構成され、人間学コースでは「共生」を主に哲学・思想の問題として、共生社会学コースではそれを主に現代の社会生活や社会構造と関連した問題として研究します。どちらのコースの授業も受講することができます。
2. 研究指導科目の「特別研究」では、指導教員が修士論文や専門領域の研究指導に留まることなく、学生の研究領域を考慮した進路設定への支援などを行うメンターとしても関わりつつ、人間学専攻の体系的な教育研究の中で「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人間」として不可欠な資質や能力を向上させるように指導します。

## 健康栄養科学専攻の特色

本専攻は、「食」と「健康・栄養」をとりまく諸問題、すなわち保健・医療・福祉・介護など社会のさまざまな場で展開される健康づくり支援システムの現状に関して、特に栄養・食生活の分野から適切に評価するとともに、システム構築に寄与しうる高度な専門知識及び技能を有する指導者・研究者を養成することをその主な目的としています。

### 【科目の編成】

#### 1. 『総合科目』と「栄養科学」「健康栄養デザイン」の2つの領域から成る『専門科目』による編成

『総合科目』には本専攻の教育目標を達成するのに必要不可欠な知識及び技能の習得を目指した必修科目を配置したのに対して、『専門科目』には、「栄養科学領域」と「健康栄養デザイン領域」の二つがあります。「栄養科学領域」は、栄養学に関連する基礎について最新の知識と技術を習得することをねらいとし、「健康栄養デザイン領域」は、健康づくりをデザインできる実践力を高めることを意図しています。

#### 2. 学生の関心に柔軟に対応できる選択履修を重視した編成

『総合科目』に配置された科目は必修ですが、『専門科目』については栄養科学、健康栄養デザイン領域のいずれの科目も全て選択とし、それぞれの学生が関心に応じて学習できるように、教育課程に柔軟性を持たせる編成となっています。

### 【カリキュラムの特色】

#### 1. 健康と栄養に関する専門的知識修得を目指した体系的なカリキュラム

大学院教育の導入として総合科目に「健康栄養科学概論」を配置し、栄養科学、健康栄養デザインいずれの領域を主とする学生にとっても、現代の健康と栄養に関する課題を俯瞰できるようになっています。さらに、栄養科学、健康栄養デザイン両領域に配置した7つの専門科目によって、食と栄養に関する高度な専門的知識を体系的に修得できます。

#### 2. 幅広い視野を身につけるための関連領域科目をも選択できるカリキュラム

総合科目に配置した「健康栄養科学概論」を必修科目とし、現代の栄養関連分野に関する諸課題を広い視野から捉えることができるようにするとともに、研究テーマの領域にかかわらず、専門科目は全て選択可能とすることによって、研究テーマに関連する分野も学べるようになっています。すなわち栄養科学、健康栄養デザイン両領域に配置した専門科目はすべて選択とし、特定の分野に偏ることなく、幅広く食と栄養に関して高度な専門的知識が修得できるように考えられています。

#### 3. 高度な専門職（あるいは研究者）として必要な能力・技法を身につけるための教育プログラム

総合科目に配置した「特別研究」によって、学生は自らの関心に応じて選択したテーマについて教員の指導のもとに研究を行います。指導教員は、研究に必要な技術・手技あるいは調査・分析方法等について適宜指導を行い、高度専門職あるいは研究者としての能力の涵養に努めます。また、総合科目に配置した「基礎演習」での専門的外国文献の講読等を通して、海外の最新情報にアクセスできる能力を養うとともに、「総合演習」などを通じて、プレゼンテーションや討論能力の向上を図ることで高度な専門職としての実践力を身につけます。そして、修士学位論文の作成を通して、学生が自らの研究結果を公表するための手段としての論文作成の重要性を認識し培うよう指導します。